



神経障害性疼痛

何らかの原因により神経が障害され、それによって起こる痛みを「神経障害性疼痛」といいます。

40代以上に多く、日本では約660万人以上の患者さんがいると推定されています。

今回は神経障害性疼痛の原因として高齢者に多い、けいついしやうせいしんけいこんしやう頸椎症性神経根症とようぶ腰部脊柱管狭窄症を中心に、神経障害性疼痛について解説します。



けいついしやうせいしんけいこんしやう

頸椎症性神経根症

頸椎には7個の骨があり、これらの骨が積み重なった構造になっています。骨の内側には脊髄（せきずい頸椎部の脊髄を頸髄といいますが）が通るトンネルがあり、その頸髄から枝分かれした神経根が通る椎間孔という隙間が、椎間板ヘルニアや頸椎の加齢による変形で、椎間孔の狭窄が生じて圧迫され、主に片側の首、肩、手指にかけて痛み（じやうわんしんけいいつう上腕神経痛）や痺れ、脱力感があらわれるのが、頸椎症性神経根症です。（裏面図1）

ようぶせきちやうかんきやうさくしやう

腰部脊柱管狭窄症

先ほどの脊髄が通るトンネルを脊柱管といいますが、腰のあたりにある脊柱管が狭くなって神経が圧迫された状態のことを腰部脊柱管狭窄症といえます。脊柱管が老化などの原因で狭くなり、神経根や馬尾（ばび）と呼ばれる部分が圧迫され、下半身に痺れるような痛み（ざこつしんけいいつう坐骨神経痛）、麻痺や間欠跛行と呼ばれる痛みによる歩行障害を伴うこともあります。（裏面図2）

治療

上腕神経痛や坐骨神経痛のような神経障害性疼痛を治すには、神経を圧迫している箇所を手術的に解除するしかありませんが、圧迫している箇所をピンポイントで除去することが今の医学にはできません。手が使えない、足が動かない、といった重症の患者さんは手術適応になりますが、多くの患者さんは症状を緩和する治療が行われます。



薬物治療

| | |
|--|--|
| <p>①神経障害性疼痛治療薬 (リリカ®、タリージェ®)</p> | <p>神経の痛みの治療に使われる薬剤で、痛みを伝える神経伝達物質が過剰に放出されるのを抑えることで痛みをやわらげます。</p> |
| <p>②三環系抗うつ薬 (トリプタノール®)、 セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 (サインバルタ®)</p> | <p>セロトニンやノルアドレナリンといった神経伝達物質の細胞への取り込みを阻害することで、痛みを感じ難くする経路を活性化させて痛みを和らげます。</p> |
| <p>③ワクシニアウイルス接種 家兎炎症皮膚抽出液 (ノイロトロピン®)</p> | <p>ワクシニアウイルスを接種したウサギの、炎症を起こしている皮膚組織から抽出した成分を含有する薬剤です。痛みを感じにくくする経路を活性化することで痛みをやわらげます。</p> |
| <p>④オピオイド鎮痛薬 (トラマール®、 トラムセット配合錠®)</p> | <p>脊髄と脳に存在するオピオイド受容体に結合することで、脊髄から脳への痛みの伝達を遮断して痛みを和らげます。</p> |

物療法で改善が認められない場合は、神経ブロック療法が行われます。



天気痛

耳の一番奥の内耳が急激な気圧の低下または上昇を感じると、交感神経（体を緊張させる神経）と副交感神経（体をリラックスさせる神経）からなる自律神経のバランスが乱れてしまいます。交感神経が活発になり過ぎると痛みの神経を刺激し、頭や古傷が痛くなります。一方、副交感神経が活発になりすぎると、倦怠感や気分の落ち込みを感じます。

